

鱸の人工増殖法について

津名郡遠田小學校 濱野 快郎

鱸の人工増殖について成功されたのは京大の川村智次郎先生である。私は間接ではあるが二回にわたり指導實習をうけた、この方法たるや至極簡単なもので誰にでも興味をもつて行うことが出来る。今其の方法についてお傳へする。結論から申すならば成長した雌鱸の腹部に脊柱動物の脳下垂體（蛙を利用すれば得やすい）を注射して成熟を促進せしめ卵を押し出し雄鱸の精液を滴下して受精せしめるのである。

使用器具、藥品 1. 解剖ばさみ 2. ピンセット 3. 解剖針 4. シャーレー 5. 管ピン 6. スポイト 7. 魔酔ビン 8. 乳鉢 9. 注射器 10. 布切 11. 水槽

1. NaCl (にがりを除く), KCl, CaCl₂……(生理食鹽水)
2. アセトン……(ホルモンの保存用)
3. エーテル……(注射器の消毒用)

生理食鹽水 (Linger)

	鱸 用	蛙 用
NaCl	0.75gr	0.65gr
KCl	0.035gr	0.02gr
H ₂ O	100cc	100cc

成熟促進 蛙の脳下垂體を摘出せしむるには蛙の頭部を解剖ばさみで切開し、脳髓を残す脳下垂體は脳髓の裏側にある、一個の大きさは一耗程の微小なるものであるから見逃さぬ様に注意する。

處理、取り出したる脳下垂體を乳鉢ですりつぶす、中位の鱸一匹に對して一ヶ半を 0.1cc の Linger でうすめて注射する。

鱸の雌雄判定法

雌	胸鰭が丸味を帯びている
雄	胸鰭がとがつている 腹部脊鰭のあたりがふくれている

注射後の處理 6月頃の氣候では注射後12時間位にて横腹部を軽く壓して卵が出る程度がちょうど良い、

(鉛色の半透明) 強く壓して出るのは未だ熟していない(不透明)注射後40時間以上も放置すれば卵として要をなさない。産卵は5,000~10,000受精、雄鱸の腹部を切開すれば二すじの乳白色の精巢がある、これを摘出して精液を出し食鹽水にて薄くする、その精液を雌鱸の腹部を布でつつみ産卵させた上にスポイトで注ぎ落す。

孵化 受精後一晝夜位にて孵化するが二時間位で白色になれば未受精卵である、孵化後三日位で泳ぎ出す、一週間位は時々換水する十日もたてば水田なり養鱸場に放つことが出来る。

養鱸上の餌料、鱸は蛋白質養の重要な資源であり美味である。餌料としては ①米粕をといてやる ②米のとぎ汁 ③ミミズ ④イトミミズ……等

注意 孵化後間もない子鱸は底に泥を薄くしく程度で別に餌料はいらない。

水田を養鱸場とする時の注意 肥料に對する害はあまりないが石灰には害があるようである故散布後一週間後に放てば害はない。1反當に3,000~5,000匹が適度である。

以上非常に簡単に述べました。意のつくせない點、お許し下さい。安するよりも産むが安い。時期が訪れたら早速と試みられんことをお奨めします。